

平成28年第3回大仙市議会定例会

# 市 政 報 告

平成28年 8月30日

大仙市長 栗 林 次 美

平成28年第3回大仙市議会定例会にあたり、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況について申し上げます。

はじめに、8月27日に開催された第90回全国花火競技大会「大曲の花火」と関連事業等について報告いたします。

本年の大会は、90回を記念する大会として、テーマを「行雲流水 <sup>そ</sup> <sup>そう</sup> 礎と創」とし、国土交通省をはじめ秋田県警、広域消防、消防団など関係機関のご協力のもと盛大に開催されました。大会直前の23日には、台風9号の影響による雄物川の増水により、観覧席の約7割が冠水し大きな被害が出るなど、大会前日まで天候不順が続いたところではありますが、関係者の懸命な復旧作業により無事に大会に臨むことができました。

当日は好天に恵まれ、地元花火業者の共同制作による大会提供花火「歓喜」も好評を博し、昨年より3万人多い74万人の人出となりました。競技においては、最優秀賞である内閣総理大臣賞を茨城県の野村花火工業株式会社が受賞しております。

大会開催にあたっては、本年から、観覧会場の栈敷席を中心に、いす席、自由席、フードコート等のレイアウトを左右対称に変更したほか、打ち上げ会場においては、国土交通省のご支援をいただきながら、長年の懸案でありました不陸整正や排水対策、管理用道路の新設などを実施したところでもあります。これらの取組により、観覧客の安全性や花火の見やすさ、並びに参加業者の安全性の確保と作業の効率化が図られたものと考えておりますが、今後も年度内に予定されている残りの対策を着実に実施し、日本一の花火会場にふさわしい環境整備に努めてまいります。

本大会で6回目となる「大曲の花火への被災者招待事業」については、日本花火鑑賞士会の協力をいただき、岩手県宮古市、大槌町、宮城県気仙沼市、南三陸町の被災者と、本市を含め県南地域に避難されている方々を合わせて、176人を栈敷席に招待いたしました。また、NPO法人「秋田パドラーズ」が独自に実施している被災者支援事業についても、観覧席の手配等について協力しております。

また、友好交流都市である韓国唐津市のチョン・ビョンヒ副市長をはじめ6名の皆様を、8月26日から29日までの日程で本市に招へいし、「大曲の花火」を鑑賞していただきました。旧池田氏庭園、JA秋田おぼこライスターミナル等を視察していただいたほか、来年の友好交流都市協定締結10周年に向け、記念事業等に関する協議を行っております。

大曲の花火ウィークについては、初日の21日に花火通り商店街を主会場に「夏まつり大曲2016」が開催され、子どもから大人まで楽しめる多種多様なイベントが実施されたほか、同日に、市内の各団体と市からなる街プロジェクト実行委員会による「ドンと恋 花火浪漫」が開催されております。また、大会前日の26日と当日の27日には、丸子川河畔特設会場等において、地元出身の若手歌手や多くの市民に出演していただき「街中音楽ショー」が開催されたほか、「日替わり花火ショー」、「ご当地グルメ」など各種イベントにより、本市への来訪者を出迎え、大会直前のまちの雰囲気は大いに盛り上げていただきました。

なお、各地域の夏まつり行事については、8月7日に西仙北大沢郷地区の「亀田街道まつり」、8月15日に「彩夏せんぼく2016」と「第32回ふるさと西仙まつり」、翌16日に「第32回ドンパン祭り」、「角間川盆踊り」、「南外盆踊り」などが地域色豊かに開催されております。特に、「ドンパン祭り」においては、本年から公募により任命された「ドンパン娘」21名が踊りの手本役を務め、例年以上の賑わいを見せるなど、地域文化の継承に向けた取組が進められております。

次に、花火産業構想の進捗状況についてであります。

第16回国際花火シンポジウムに向けた準備については、7月16日から新たに市民ボランティア養成のための講座を開設し、32人の市民が受講しております。受講者には、シンポジウム会場や花火観覧会場等の案内と本市の観光資源の紹介等を英語で対応ができる能力を身に付けていただき、運営のサポートと市のPRに協力していただくこととしております。

また、県が実施しているクルーズ船の寄港に向けた取組については、6月に

能代港、8月に秋田港で合わせて約3,300人の乗客に対し、「大曲の花火協同組合」が花火を打ち上げ、国際花火シンポジウムの開催と本市の魅力をPRしたところであります。

国際花火シンポジウムの開催に係る経費については、国際花火シンポジウム協会が本年5月に本市を公式視察し、今般、年度内に実行委員会が負担する準備経費について協議が整ったことから、今次定例会に関連予算の補正をお願いしております。

特産品等の海外販路開拓及び観光客誘致活動を行うグローバルな人材を育成する「海外販路開拓と人材育成事業」については、6月29日から大仙市観光物産協会の職員1名を、協定を締結している株式会社あきた食彩プロデュースの台湾事務所へ派遣しており、特産品販売や観光誘客のための商談会、展示会等への参加を通じて取引先を開拓し、本市の観光・物産の両面を売り込んでまいります。

このほか、インバウンド観光の取組として、老松副市長が8月19日から25日まで台湾に出張し、知事のトップセールスに参加したほか、大曲青年会議所と姉妹協定を結んでいる中和国際青年商会の設立40周年記念式典等に出席しております。

花火をイメージしたダリアの新品種を開発する「大曲の花・美開発事業」については、7月4日に「大曲の花火ダリア」が東京都大田生花市場等へ初出荷されております。今後は球根の増殖を図るとともに、花き農家への栽培普及に取り組みながら生産の拡大を図ってまいります。

中沢工業団地において、株式会社花火創造企業の花火工場用地として進めておりました造成工事については、6月末に完了し、各検査を経て7月20日に完了公告を行っております。同社が花火産業構想の核事業として実施する花火工場建設については、9月12日に起工式が行われると伺っておりますが、市といたしましては、地場産業の振興と雇用創出及び地域経済の活性化を担う本工場の操業を積極的に支援してまいりたいと考えております。

この夏は、リオデジャネイロオリンピックへの本市出身3選手の出場や大曲

工業の夏の甲子園初出場など、本市のスポーツ分野の活躍に市民が大いに沸きました。

リオデジャネイロオリンピックでは、マラソン競技に出場した南外地域出身の佐々木悟選手が、日本勢最高の16位となる力走を見せてくれました。パブリックビューイングでは、佐々木選手の家族や母校の南外中学校の生徒など約350人が集まり、温かい声援を送りました。カヌー・スラローム競技カナディアンペアに出場した協和地域出身の佐々木将汰選手、翼選手の兄弟は、残念ながら予選を通過することができませんでしたが、世界の強豪を相手に果敢なレースを見せてくれました。地元出身選手が世界の舞台で活躍したことは、市民に大きな感動と、未来を担う子どもたちに夢と希望を与えてくれました。

第98回全国高校野球選手権大会に出場した大曲工業は、県予選を粘りの野球で突破し、埼玉の強豪、はなさきとくはる花咲徳栄高校と対戦しました。健闘むなしく1対6で敗れたものの、好投手を相手に10安打を放つなど素晴らしい試合を見せてくれました。

また、スポーツ少年団の活動については、バレーボールの大曲ウィングスジュニアスポーツ少年団が第36回全日本バレーボール小学生大会において、秋田県初の快挙となる準優勝を果たしたほか、野球、バドミントン、卓球、空手においても全国大会へ出場するなど、近年まれにみる好成績を残しております。

市では、スポーツ少年団が全国大会や東北大会等へ出場する際の交通費や宿泊費などの経費について一定の補助を行っておりますが、小学生の活躍は市民に大きな元気を与えてくれますので、今後、派遣費等に係る支援の充実について検討を進めてまいりたいと思います。

加えて、韓国唐津市、宮崎市及び座間市とのスポーツをはじめとした青少年交流、広島への非核平和レポーターの派遣、国内トップレベルの研究機関やオーストラリアへの中学生の派遣など、子どもたちが外の世界で様々な体験をする機会の充実を図ってきたところであります。こうした取組は、子どもたちの成長過程において、自信や勇気、ふるさとの再発見など、将来の本市を担う人材の育成に大きな効果があるものと考えておりますので、今後も交流や派遣の機会の充実を努めてまいります。

このほか、スポーツ振興については、全国500歳野球プレ大会を7月16日から3日間の日程で開催しており、本県を含む7都県から13チームが参加し、岩手県のチームが優勝しております。大会では、県外チームへのサポート、市内観光案内、小・中学生や大曲高等学校書道部によるアトラクションの披露やプレゼントなど、手づくりのおもてなしで参加チームを迎えたところであり、参加者からは、受け入れ態勢等について概ね好評をいただいたところですが、アンケートの結果等を踏まえ、本大会に向けた準備を進めてまいります。

第25回となる全県550歳野球大会については、選抜24チームの参加のもと7月23日から3日間の日程で開催されております。また、本年で38回目となる全県500歳野球大会については、昨年と同数の184チームの参加により、9月17日から5日間の日程で開催される予定であります。

大学等のスポーツ合宿については、7月27日から首都圏を中心とした6大学、3高校の野球部が市内の施設を利用して夏季合宿を行っております。合宿期間中は、横浜商科大学野球部が地元高校生との練習試合を行うなど、地域の子どもたちとの交流を通じて本市のスポーツ振興に大きく貢献していただいております。

2年ぶり3回目となる早稲田大学応援部の合宿については、185人が西仙北、協和地域を拠点に10日間の夏季合宿を行っており、この間、成人式でのアトラクションの披露や、総合練習、成果発表において、多くの市民に観覧していただいております。

また、毎年恒例の空手道剛柔流誠和会の合宿については、大曲武道館を会場に行われ、世界11か国から82名が本市を訪れております。

こうしたスポーツの力による年齢、性別、地域、国籍を超えた交流人口の拡大は、地域の賑わいや元気の創出に大きな役割を果たすものと考えておりますので、今後とも市民と力を合わせ「おもてなし」の心で取り組んでまいります。

それでは、各部局の主要事業の進捗状況について報告いたします。

はじめに、総務部関係についてであります。

職員採用試験については、一般行政事務、保健師及び上級土木の技術系職員、一定の社会経験のある職務等経験者、合わせて20名程度の採用予定に対し117人の受験申し込みがあり、一次試験を7月24日に、二次試験を8月12日、17日及び18日に実施し、9月2日に合格発表を予定しております。

大曲仙北広域市町村圏組合消防職員の採用試験については、上級、初級合わせて11名程度の採用を予定しておりますが、このうち上級消防には8人の受験申し込みがあり、一次試験を7月24日に、二次試験を8月22日と翌23日の2日間実施し、9月13日に合格発表を予定しております。なお、初級消防及び初級救急救命については、8月1日発行の市広報及び広域消防本部のホームページで採用試験の詳細を公表しており、9月18日に一次試験を実施する予定としております。

大曲仙北広域市町村圏組合事務職員の採用試験については、若干名の採用予定に対し25人の受験申し込みがあり、一次試験を8月28日に実施し、二次試験を9月29日に、合格発表を10月13日に予定しております。

公共施設等総合管理計画については、広く市民に周知するため、市のホームページや広報への記事の掲載、各地域協議会における説明会を行っております。今後、9月5日から約2カ月間、パブリックコメントを実施し、多方面からの意見等を計画内容へ反映させながら、来年3月末までに策定することとしております。

雪対策については、「大仙市雪対策総合計画」に基づく取組の一環として、地域で支え合う「共助」による雪対策について考える「第1回大仙市雪シンポジウム」を7月22日に大曲市民会館を会場に開催し、自治会や自主防災組織、多面的機能支払交付金事業活動組織の代表者や除雪、雪下ろし事業者、消融雪施設管理組合の方々など、423人の参加をいただいております。

また、昨年度創設した「高齢者等雪対策総合支援事業」と「地域提案型自治会等雪対策モデル事業」については、それぞれ検証作業を行い、事業を継続することとし、自力での除雪が困難な高齢者世帯等への支援と地域における共助活動への支援に力を入れてまいりたいと考えております。なお、高齢者等雪対

策総合支援事業のほか雪対策関連事業に係る経費について、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

次に、企画部関係についてであります。

非核平和都市宣言事業については、7月26日から3日間、市内の中学生9名と高校生1名の合わせて10名を非核平和レポーターとして広島市に派遣し、その研修成果を10月24日に中仙市民会館ドンパルを会場に開催する「平和祈念フォーラム」で発表していただくこととしております。また、本年度も「平和標語コンクール」を実施し、今月末まで募集を行っております。

ふるさと納税制度については、寄付に対する返礼品について本市をPRするための一つのツールとして、制度の本来の趣旨を踏まえながら、物産開発や観光振興に結びつく新たな制度の構築を進めてきたところであります。現在、これまで実施してきた礼状と市広報紙の送付、市カレンダーと特産品開発コンクール入賞作品の詰め合わせの送付に加え、市を代表する産品として認知されている、特別栽培米と市内蔵元のお酒を返礼品とすることとし、関係団体との調整を進めているところであります。なお、新制度による運用は10月から開始する予定であり、これに係る経費について今次定例会に予算の補正をお願いしております。

次に、市民部関係についてであります。

西仙北地域柏台に建設した太陽光発電所については、昨年12月25日から東北電力への売電を開始しており、本年4月から7月までの4カ月間の実績は、推定発電量約135万キロワットに対して約111パーセントの発電実績となっております。

大曲墓園の整備については、10月の完成に向けて順調に工事が進められており、今次定例会に、今回増設する墓地区画の使用料等に係る条例改正案を上程しております。

ごみの減量化対策については、市内の小学4年生を対象に平成25年度から3年間にわたって実施してきた特別学習が昨年度で一巡し、好評をいただいた



ことから、本年度からは、子どもたちが実際に資源ごみを分別するなど体験型の内容にリニューアルし、6月から9月にかけて7校の小学4年生、244人の参加を得て実施しております。

交通安全及び防犯対策については、10月25日に南外地域を会場として「大仙市安全安心推進集会」を開催することとし、参加者によるパレードのほか、南外地域出身の伊藤敬幹<sup>いとうゆきもと</sup>仙台市副市長の講演会、功労者表彰などを実施する予定となっております。

次に、健康福祉部関係についてであります。

大仙市戦没者追悼式については、7月29日に大曲市民会館において戦没者の遺族をはじめ218名の参列のもと開催しております。また、8月8日には、先の大戦において、フィリピンルソン島で戦病死した神岡地域出身の相馬繁治さんが戦地に持参した日章旗が、アメリカのNPO団体「オボン・ソサエティ」の協力により72年ぶりに遺族に返還されるという奇跡的な出来事がありました。終戦から71年の歳月が過ぎ、悲惨な戦争の記憶の風化が懸念される状況ではありますが、戦没者追悼式や10月に予定している平和祈念フォーラムなどを通じて、恒久平和の願いが後世に受け継がれるよう事業を継続してまいりたいと考えております。

敬老会については、76歳以上の16,331人を対象として、9月2日の大曲地域大川西根地区、太田地域を皮切りに9月15日まで15の各地域及び地区で開催することとしております。なお、金婚式については、10月26日に仙北ふれあい文化センターで開催することとしております。

「障害・遺族年金受給者向け給付金」については、8月4日から受付を開始しており、支給決定者には、10月以降順次支給することとしております。

自殺予防に関する普及啓発事業については、「こころといのちを考える集い」を毎年開催しておりますが、本年は、秋田魁新報社が県内市町村を巡回して開催している「さきがけいのちの巡回県民講座」を本市との共催で9月10日に大曲交流センターにおいて開催する予定であります。本市の自殺率は減少傾向にあるものの依然として高い水準にあることから、本講座を通じてさらなる連

携の輪を広げ、一人でも多くの命を守るための取組を進めてまいります。

予防接種事業については、予防接種法の一部改正に伴い、B型肝炎ワクチン予防接種が平成28年4月以降に出生した乳児を対象に、定期予防接種として10月1日から新たに開始されることから、今次定例会に所要の経費に係る予算の補正をお願いしております。

次に、農林部関係についてであります。

稲作については、田植え作業以降の天候にも恵まれ、出穂期<sup>しゅつすい</sup>は平年並の8月4日頃となっており、概ね良好な生育状況となっております。

3年目を迎えた大豆栽培モデル対策事業については、7月19日に大豆生産農家、農研機構東北農業研究センターなど関係機関とともに、大曲、西仙北、中仙及び太田地域の各実証ほ場並びに協和地域のモデルほ場において現地検討会を開催しております。本年産大豆については、播種<sup>はしゅ</sup>作業が全般に遅れぎみでありましたが、各実証ほ場とも適切な生育管理により概ね順調な生育となっております。

J A秋田おばこが国庫補助金を活用し、大曲地域花館地区の旧仙北地方卸売市場跡地に建設する「ファーマーズマーケット等複合施設」については、野菜等直売施設のほか、レストランや加工施設を備えた複合型施設として、平成29年6月のオープンを目指し、8月25日に起工式が行われております。

本年度から生産が本格化している中仙地域の「園芸メガ団地」については、トマトの収穫が6月22日から始まり、4月1日から稼働しているJ A秋田おばこ園芸振興拠点センターで選果され、主に関東市場に出荷されております。

畜産振興については、7月12日に神岡地域の笹倉公園を会場に開催された「第10回大仙・仙北・美郷畜産共進会」において、市内からは肉用牛48頭、乳用牛12頭、肥育牛15頭、家禽<sup>かきん</sup>4番<sup>つがい</sup>、家兔<sup>かど</sup>15羽が出品され9点が優等賞を受賞しております。上位入賞した肉用牛5頭については、8月21日に開催された「第1回秋田県出品対策共進会」に出品され、うち2頭が優等賞を受賞しております。和牛飼育農家においては、来年度宮城県で開催される全国和牛能力共進会に向け、優良肉用牛生産への機運が高まっております。

全農畜産サービス株式会社が、南外<sup>おおばたみやま</sup>地域大畑深山地内に建設する「秋田大仙 S P F 豚<sup>とん</sup>センター」については、7月27日に起工式が行われ、平成29年12月の完成に向けて造成工事が進められております。なお、同社が協和地域で運営している「秋田 S P F 豚センター」については、6月4日に火災が発生し、豚舎8棟のうち半数の4棟が焼失しましたが、幸い従業員等の人身被害はなく、残りの4棟で生産を継続していくと伺っております。

地域の畜産関係者が連携し収益力強化に取り組む畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業については、西仙北地域土川地区で養豚業を営む法人が「畜産クラスター計画」に基づき整備する畜舎整備に対し、今般、国庫補助金の内示があったことから、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

今年は春以降、熊の目撃情報が多数寄せられており、7月末現在の目撃情報は96件で、昨年1年間の54件を既に大きく上回っております。熊の出没時には、目撃現場付近の警戒広報と併せ、付近の保育園等や、小・中学校、公民館などへ注意喚起を行っているほか、頻繁に出没する箇所には注意看板を設置しております。さらに人身被害の恐れがある箇所には檻の設置などにより対応し、被害防止に努めているところであります。本年は山の木の実が不作との予想もあることから、今後も関係機関と連携し、熊出没に対する注意喚起を強化してまいります。

次に、経済産業部関係についてであります。

雇用対策については、高校生の採用枠拡大と早期の求人票提出を要請するため、ハローワーク、仙北地域振興局、仙北市、美郷町及び大仙市で構成する仙北地域雇用促進連絡会議と管内の高等学校長とともに、6月13日に市内経済団体に対し要請活動を行っております。7月8日には、来春卒業予定の高校生の就職に対する理解を深め、早期離職者の減少と地元定着を図るため「仙北地域新規高卒者企業説明会」を開催し、46事業所が高校生165人に対して自社の紹介を行っております。

また、大曲仙北、横手、湯沢の雇用開発協会の共催により、7月22日から8月4日までの14日間、県南地区職場研修事業が実施され、大曲仙北管内に

においては、47事業所にご協力をいただき、高校生延べ222人が実際の職場で研修を受けております。

なお、来年の新規高卒者向けの求人状況は、ハローワーク大曲管内の7月末現在の状況で求人事業所数144社、求人数415人と、前年度同時期と比べ求人数が12.2パーセント増加しており、各種取組について一定の成果があったものと考えております。

県内の大学生に市内企業を理解してもらうことを目的に本年度新たに実施する「大仙市企業インターンシップ事業」については、前期分として市内企業8社から受け入れの申し出があり、大学生の夏休み期間中にインターンシップを行っております。

企業対策については、地域再生法の一部を改正する法律により、企業の地方拠点強化を促進するため、本社機能の移転・新增設を行う事業に対して支援措置が講じられることとなりました。その中で、事業者に対する優遇施策として地方公共団体が固定資産税を減額した場合、減収額を地方交付税により補填する制度が創設されておりますので、今次定例会において固定資産税の不均一課税に関する条例案を上程しております。

企業誘致については、秋田県知事が会長を務める秋田県企業誘致推進協議会の会員として、7月19日に東京都で開催された「あきたリッチセミナー in TOKYO」と、翌20日に名古屋市で行われた「東海地区企業懇談会」にそれぞれ参加しております。

次に、建設部関係についてであります。

都市計画マスタープランの高度化版である「大仙市立地適正化計画」については、その策定に向け、国の集約都市形成支援事業費補助金を活用した委託業務を7月に発注しております。

また、大曲通町地区第一種市街地再開発事業により新たに誕生した大曲ヒカリオが「コンパクト・プラス・ネットワークを目指したまちづくり」の先進的な取組として高く評価されたことに伴い、国土交通省東北地方整備局が主催する「第10回東北発コンパクトシティ推進研究会」が、本市を会場として10

月24日から2日間の日程で開催される予定となっております。

道路整備事業については、社会資本整備総合交付金を活用した市道幹線路肩改修事業として、神岡地域の坊ヶ沢戸月線路肩改修工事及び南外4号線用地測量業務、並びに市道幹線小区間改良事業として、仙北21号線の詳細設計及び地質調査を発注しております。

また、防災安全社会資本整備交付金事業では、市役所前通線の無散水融雪設備工事を発注済みであり、路面修繕事業として計画した全5路線及び橋梁長寿命化修繕事業として実施する仙北地域の川福橋及び川前橋の補修工事を発注済みであります。

市単独事業では、市内全地域で56カ所の道路工事のうち、21カ所が完了し、14カ所が発注済みであり、残りの21カ所の工事についても、原則、冬期の施工が必要な工事を除き、9月末の発注に向けて準備を進めております。

次に、国、県関係事業についてであります。

雄物川中流部における直轄河川改修事業の協和地域岩瀬・湯野沢地区については、国土交通省湯沢河川国道事務所主催の地元説明会が6月26日に開催され、堤防ルートや移転対象者等が公表されております。これを受け、市では、かねてより地域住民から要望のあった当該地区の集団移転に関する意向調査を行っており、間もなく集計結果がまとまる予定となっております。なお、集団移転先等の比較検討業務に係る経費について、今次定例会に予算の補正をお願いしております。

昨年7月25日の水害により堤防が決壊した中仙地域の県管理河川「芥内川」については、決壊箇所や上流洗掘箇所の災害復旧事業として、本年度9件、総額10億円を超える工事が既に発注されており、平成29年度の完成に向けて順調に工事が進められております。

また、本年から正式加入した秋田市を含む雄物川流域6市町村長と議会議長で構成し、私が会長を務める雄物川改修整備促進期成同盟会では、国の直轄河川における一層の事業促進を要望するため、8月2日から4日までの3日間の日程で、地元選出国會議員や国土交通省、財務省に対し要望活動を行っております。

次に、上下水道部関係についてであります。

大沢郷地区、刈和野地区及び南外地区の簡易水道に係る3水源については、雄物川暫定豊水水利権により取水しておりますが、成瀬ダムの完成まで、雄物川の流水量が一定量を下回った場合は取水ができない規定となっております。本年度も水位低下に伴い、7月に1回、8月に入って2回、取水を停止しておりますが、玉川ダム群からの調整放流や台風による降雨に伴い水位の回復があったことから、取水を再開し断水には至っておりません。今後、河川の水位が再び低下した場合は、直ちに河川管理者である国土交通省湯沢河川国道事務所と対応を協議しながら取水の継続を図ってまいりたいと思います。

このほか、簡易水道に係る事業については、中仙入角地区いりすみにおいて、斉藤川上流の土砂崩落等の影響により、取水部上流にある砂防ダムに土砂が堆積しており、降雨時には原水が浄水能力を超える高濁度となり、水質や安定供給への影響が懸念される状況にあることから、新水源の早期確保を図るため、浄水場付近において地下水の電気探査やボーリング調査を行うなど、取水施設の工事に向けた準備を進めてまいります。

また、地方公営企業法適用に伴う企業会計システム構築業務委託については、7月上旬に発注済みであります。

大曲上水道宇津台浄水場の更新事業については、土木・建築工事について、9月中旬の発注を予定しております。また、今回の工事で排出される残土の一部は、国土交通省のご協力の下、雄物川左岸の花火打ち上げ会場の整備に提供することとしております。

下水道事業については、大曲、神岡、南外地域において管渠工事及びマンホールポンプ設置工事を終えております。また、協和、刈和野地区における処理場の長寿命化整備に係る工事については、現在、発注の準備を進めております。

次に、教育委員会関係についてであります。

総合的な学力の育成については、ふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目指す取組である「大仙ふるさと博士育成事業」により、対

象の小学3年生から中学2年生までの児童生徒が、この夏休みを通じて、地域行事への参加や企業・施設等での見学・体験など地域と関わる様々な活動を行っております。

また、西仙北中学校においては、生徒自らの発案により地元商店街や仙北建築士会等の協力を得ながら空き家のリノベーションを行うなど、地域の元気につながる自発的な活動が実践されております。

防災教育については、5つの中学校及び8つの小学校がそれぞれの交流先の学校や仮設住宅等を訪問し、児童生徒や住民の方々との親睦を深めているところであり、今後も複数の交流事業が予定されております。中でも太田中学校の大槌町立大槌学園との交流及び平和中学校の大槌町での花火の打ち上げについては、公益財団法人ちゅうでん教育振興財団の教育振興助成を受けて活動を行っております。また、地域と連携した避難所開設訓練については、本年度は仙北中学校を会場に、地域の防災組織等との連携の下、10月21日に実施する予定です。

「コロンブスの卵わくわくサイエンス事業」については、8月4日と5日に市内の中学生18名をつくば宇宙センター、日本科学未来館及び千葉大学医学部等に派遣しております。

平成19年度から市内のすべての中学校が参加し、生徒の話し合いにより共通実践を進めている「中学生サミット」については、8月19日に大曲中学校で開催されております。本年度は、中学生サミット結成10年の節目にあたり、「第一部」ではこれまでのサミットの歩みを振り返り、「第二部」では「大仙市の未来は私たちがつくる」というテーマのもと、第2次大仙市総合計画基本構想についての説明を受け、「ずっと住みたいと思える大仙市のまちづくり」について話し合いが行われております。

青少年交流については、8月4日から8日まで、市内の中学生4名を友好交流都市である韓国唐津市に派遣し、唐津市の中学校での交流をはじめ、産業施設や機池市綱引き博物館の見学などを行ったほか、ホームステイを通じて唐津市の青少年やホストファミリーとの交流を深めております。

生涯学習の推進については、第11回大仙市民交流将棋大会を7月17日に「ねりんピック2017リハーサル大会」を兼ねて開催し、市内外から74人が参加しております。大会当日は、血压測定や認知症チェックなどの健康コーナー、飲み物や軽食などのおもてなしコーナーを設け、好評をいただいたところであります。また、第12回大仙市民交流囲碁大会を、7月31日に大曲交流センターにおいて開催し、市内外から66人が参加しております。

成人式については、8月15日に大曲市民会館において行われ、新成人869人のうち672人が出席しております。式典終了後の記念アトラクションでは、本市で合宿中の早稲田大学応援部の皆さんから新成人に対しエールを送っていただき、心温まる成人式となりました。

文化財保護については、7月に開催された国の文化審議会において、角間川地区に所在する本郷家住宅の主屋や文庫蔵、洋館など4棟が国の登録有形文化財とするよう答申され、官報への公告などの諸手続きを経て、この秋には正式に登録文化財となる予定であります。これにより、本市の国登録有形文化財は強首<sup>しょうほうえん</sup>樅峰苑など4件となります。

鈴木空如の法隆寺金堂壁画模写作品については、平成23年度から実施しておりました表装修復作業が完了したことから、10月に12面の壁画を一挙に展示する企画展を開催することとしております。また、この企画展に合わせて、法隆寺の大野玄妙管長をお招きして特別講演会を開催する計画であります。

最後に、財政状況についてご報告いたします。

平成27年度の決算については、実質収支は普通会計ベースで16億3,592万円の黒字となっております。

また、財政調整基金からの取り崩しを行わず、3億61万円の積み立てを実施したことなどから、実質単年度収支は合併後最大となる8億5,422万円の黒字となり、7年連続の黒字決算となっております。

国民健康保険事業特別会計をはじめとする特別会計決算については、すべてにおいて実質収支がゼロまたは黒字となっており、企業会計となる市立大曲病院事業会計及び上水道事業会計の決算については、収益的収支において両会計



とも黒字となっております。

財政指標については、財政構造の弾力性を示す経常収支比率が89.4パーセントとなり、前年度と比較して0.5ポイント上昇しております。これは、歳入において、市税や地方交付税等の減少による経常一般財源が減額になったこと、また、歳出において、燃料価格の下落などによる物件費や市債発行額の抑制による公債費の減少があったものの、子ども・子育て支援制度の給付に係る補助費等や下水道事業償還金の増による繰出金の増加などにより、比率が上昇したものであります。今後も普通交付税の減額により、比率算定の分母が年々減少し、比率の上昇が予想されることから、一層の経費削減に努めなければならないものと考えております。

実質公債費比率については、過去3年間の平均値で算出しており、これまでの市債発行額の抑制による公債費の縮減などから15.1パーセントと前年度より1.1ポイント改善されております。

将来負担比率については、136.9パーセントと前年度から10.0ポイント改善されております。これは、市債残高や職員数の減少、財政調整基金の増加などによるものでありますが、依然として高い水準で推移していることから、引き続き職員数の適正管理や市債発行額の抑制に努めるなど、将来負担の軽減を図るため、一層の改善に取り組んでまいります。

市の財政運営については、市税等の自主財源の割合が低く、地方交付税等の依存財源の割合が高い状態であることから、自主財源の確保や事業の取捨選択、事務事業の合理化を図るとともに、国の動向を十分に踏まえながら、引き続き健全な財政運営に努めてまいります。

以上、主要事業の進捗状況並びに諸般の状況をご報告申し上げましたが、今後とも市民並びに議員各位のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。市政報告とさせていただきます。